

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

## 利益もたらす環境経営

### 企業風土に共感

セブン&アイ・ホールディングスは、コンビニエンスストアやスーパーマーケット、百貨店、外食産業など、さまざまな事業の会社を傘下に抱えています。企業の社会的責任(CSR)の面で、熱心に活動している会社でもあります。

セブン&アイの社是は「信頼と誠実」です。何事も真面目、愚直にやり続けるという企業風土があるそうです。

1997年、グループの中核会社だったイトーヨーカ堂はCSRに着目して投資先を選ぶ海外の投資ファンドの投資銘柄に組み込まれました。ヨーカ堂は他の国内企業に先駆けて、環境報告書を発行していました。

同社役員は「環境面の取り組みは省エネにつながり、結局はコスト削減にもなった」と、経営へのメリットを指摘しています。

環境対策が経営に利益をもたらすというのは、企業に投資するファンドが最も共感する点です。その後、ヨーカ堂は社会的責任を軸として投資先を選定する海外ファンドの動向や運用規模を把握し、グループ全体として環境、人権、女性の活用などをめぐる情報開示を進めました。

事業の規模を拡大し、セブン&アイとなった後もこうした企業の文化は変わっていません。セブン&アイはいま、CSRに関心を持つ海外の主要ファンドが必ずといっていいほど保有する銘柄になっています。

企業を評価する際は、さまざまな数値が用いられます。しかし、社会的責任に関する企業の考え方や、情報開示の姿勢といった数値以外のデータを知ること大切なことだと考えます。（株式会社グッドバンカー）